

地域企業・産業資料デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する地域企業・産業資料のうち、印刷物および近代の文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い資料については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (5) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (6) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 27 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 15HP8021 の交付を受けて作成しています。

秘

第五十三回技術會議

第一節第三回會議議事要旨

一、審議事項 第六鑄鐵爐の作業に關する件

一、開 催 昭和七年一月十九日

一、出席者 別紙記載

一、議 事

イ、技監 第六鑄鐵爐は製出鉄の硅素含有率大なるのみならず既に修繕期に達せるが故に速に吹止し必要あらば第五鑄鐵爐に火入れしたし、同該高爐吹止とは別事なるも高爐修繕前操業上の研究的試験を行ふとすれば單に第一鑄鐵課としてのみならず第二鑄鐵課、化工部并に技術課と協議の上組織的に實施したし、

第六鑄鐵爐吹止によりて鉄鐵量に不足を來すことなきや

ロ、鉄鐵部長 鉄鐵量不足の懼れなし、修繕前に行ひたき試験は(一)二噸^{ニ噸}炭^炭使用による燃況の變化、(二)燐石使用の可否、なるも(一)に

就きては先年上等粉炭のみを使用したる試験結果より判じて相當の確信を有すれど配合炭炭價低廉なる現狀に於ては經濟的に不利なたるを免かれざるべし、(二)に就きては稻葉産燐石を試用したる經驗あれど有煙炭の混在を避け得ざりしたため不成績に終りたり、燐石は購入に時日を要するが故に今回は試用不可能なるべし

ハ、第一露鑛課長 燐石は攝氏三〇〇度(燃頂溫度)にて破砕す、反射爐にて豫熱すればこの性質を失^い使用に堪ふべきも大量は取扱ひ難し、

ニ、化工部長 燐石の採掘費は石炭と同等にして灰分少き丈け市場に於ける價格大なり、

ホ、鐵道部長 燐石も大量を使用するに至らば自然價格も低下すべし、尙技術顧問の無煙炭使用は普通揮發分八パーセントを含む故に燃頂にて「ターブル」を析出すべく寧ろ現在通り該炭價に記入するを可とす

へ、技術課長 燐石に就ては三菱にて鋭意研究中にしてこれを一度
磁場に入れば永久に熱による粉砕なしと云ふ、燐石の使用研究は色
々の點よりなる可く早く實行するが利益なるべし、

ト、銑鐵部長 燐石の試用は寧ろ今後建設せらるべき試験高爐にて
行ひたきも第六路銑鐵修繕によりて試験高爐の建設は延期の止むを得
ざる事情にあり

チ、技監 銑鐵爐用燃料に關する研究の外質銑、含チタン鐵銑の使
用に就きても其の經濟的操業の研究は至つて緊要なり、利原其他の
質銑の經濟的使用は製鐵所としては非とも研究を完成する必要あり
リ、銑鐵部長 質銑使用試験は第六高爐以外の銑鐵爐に於て隨時行
ふこととしたし、

又、技監 第一路銑課に於て特に硅素含有率の變化甚しき理由如何
ル、第一路銑課長 低硅素銑製造のためには燐石裝入量を増加し且
つ羽口に於ける風速を小ならしむるを要し、朝顔の傾斜角は大なるを

可とす、洞岡高爐の朝顔傾斜角は大にして戸畑高爐の羽口徑は洞岡高爐に於けると同等なり、第一鑛鑛課に於ても風速を小ならしめんがため非常羽口をも併用中なれど該炭粒不揃にて潰裂強度高きに過ぐる憾みあり、ソルベー式爐該炭は三四日前より手割を實施せしめたり、

ヲ、銑鐵部長 該炭粒の大き均一なる事を高爐操業上の主要件とするは認むるも潰裂強度高きに過ぐとの理由は首肯し難し、

ワ、第二鑛鑛課長 第一鑛鑛課使用の該炭灰分は約一七パーセントにして第二鑛鑛課使用のそれは一五パーセント以下なり、洞岡に於ける實績によれば該炭灰分の低下に従ひ銑鐵中の珪素含有量も低減する傾向あり、

カ、技監 釜石製鐵所の考案にかゝる羽口の形狀に就きて所見如何長所あらば遠慮なく採用すべし

ヨ、第二鑛鑛課長 該形狀は羽口の面積を大ならしむると同様の結果にして本所現在の羽口渡浪状況より見れば特に考慮の必要を認め

ず、

タ、第一鋸鑛課長 獨逸に於て大戦中鋼板鋸接の刃口を使用した事ありたるも成績不良なりし由、これが製作は工作課に於ても相當困難なりと云ふ、

レ、技監 第六鋸鑛爐製出銑の珪素含有量低減の見込渺しとせばこれを冷銑として鑄物に使用しては如何、

ソ、製鋼部長 洞岡の銑銑は第三第四製鋼工場に、他は第一第二製鋼工場に使用する方針にて極力冷銑の製出を減少せしめんと努力しつゝあれど實際上種々の支障あるものの如し、

ツ、第二鋸鑛課長 最近も混銑爐の都合により數百匁を流鑄機にて處分したる状態なるが故に第六高爐の銑銑を冷銑とする事に決定せばこの不便を避け得べし、尚製鋼部に於て銑銑受入係を設置せられ銑銑部との交渉に當らしめられては如何、

ネ、製鋼部長 銑銑受入係の設置は賛成なり、將來高爐附近に大混

銑爐を設くる事は冷銑減少の目的を達する上に必要なりと考ふれどこの場合に於ても各製鋼工場所屬混銑爐は廢し難し、

ナ、銑鐵部長 銑銑の使用増加せる場合銑素高くとも銑銑たるを必要とする事なきや、

ラ、製鋼部長 或る場合には銑素の高低に拘らず銑銑たるを必要とする事あるが故に銑素の如何によりてこれを取捨するは不可能なるべしと雖も特定の高爐例へば第六高爐製出銑に限りて冷銑となすを妨げず、

ム、技術課長 工作部に於ける三月迄の鑄物銑使用豫定は二千噸に過ぎず、第六高爐製出銑全部を之れに振り向くるは多きに過ぐべし

ウ、技監 第六高爐製出銑に於ては二噸單味焦炭の使用試験を行ふ事とし高銑素銑の處分に就いては關係者間の考究を希望す、尙製鋼部に於て銑鐵受入の統括方法に就き研究を望む。

出席者（九名）

野田技監

井村技術課長

堀瀬銃鋳部長

平川第一露鑛課長

山岡第二露鑛課長

久保田製鋼部長

黒田化工部長

伊能第一骸炭課長

岡村第二骸炭課長